

東京日々新聞

四百廿一號



死を
盆過て宵闇ならまき水代の橋のぬり
つぎつぎと橋上より投じま
おげぬるをよけてたてと
せん術波間ふたふと私より三浦
某君々夫九十けと情のひと言
船人とのり傳

鬼舟
小水の子細と尋問小童中捕
和泉町る浅野天兵衛が社中
安房國館山田小柴茂七が娘のを
年五月小舟れ者あり深川下町安
ありと色色怖る水代橋のな中て四
歳余の新髪男矢庭ふを引捕中
金三圓を奪取りあまの又川中へ
いあるを三浦君とて三浦君の方
送り遣せると劍のくふ命した程
町の河岸のまぬ初ら十七日の月の中
さりの夜に物更あをふる熱化老人識

具足屋 渡辺彫栄



75
70
65
60
55
50
45
40
35
30